

NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会主催 シンポジウム

'97少年A事件と『絶歌』から学ぶ

1997年に神戸で起きた、当時14歳の少年による連続殺傷事件(酒鬼薔薇聖斗事件)から18年。昨年出版の元少年Aによる手記「絶歌」を通して、私たちは何を学べるのでしょうか。シンポジウムを通して考えていきます。

シンポジスト

せりざわ しゅんすけ
芹沢 俊介 氏 思想家



たかおか けん
高岡 健 氏 児童精神科医



てらで すみこ
寺出 寿美子 氏 ソーシャルワーカー
日本子どもソーシャルワーク協会 理事長



2016年 **5**月 **21**日 **土**曜日

【時間】13:45~16:00 (開場 13:30)

【会場】砧総合支所 4階集会室E

【申込み】予約不要・先着順

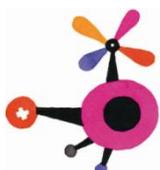
【費用】1,200円 (資料代含む)

【お問合せ】日本子どもソーシャルワーク協会
03-5727-2133 (平日9~18時)

【会場のご案内】砧総合支所

東京都世田谷区成城6-2-1

(小田急線「成城学園前」駅下車。中央口から徒歩3分)



特定非営利活動法人 日本子どもソーシャルワーク協会

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-29-12

TEL: 03-5727-2133 FAX: 03-3416-6994 MAIL: kodomo-sw@jcs.w.jp

NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会主催 シンポジウム ‘97 少年 A 事件と『絶歌』から学ぶ

【シンポジストのご紹介】

◇芹沢俊介（思想家）

上智大学経済学部卒。文芸・教育・家族など幅広い分野の評論活動を行っている。現代の家族や学校の切実な課題、子どもたちの問題を独自の視点で捉えている。主な著書に『養育事典』『子どものための親子論』（明石書店）、『家族という意志』（岩波新書）、『愛に疎まれて』『家族という絆が断たれるとき』『「孤独」から考える秋葉原無差別殺傷事件』（高岡健氏との共著）（批評社）、『母という暴力』（春秋社）、『親殺し』（NTT出版）、『引きこもるという情熱』『「存在論的ひきこもり」論』『殺し殺されることの彼方』（高岡健氏との共著）（雲母書房）がある。

◇高岡健（児童精神科医）

岐阜大学医学部卒業。現在、岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター児童精神科部長・発達精神医学研究所長。前岐阜大学医学部准教授。日本児童青年精神医学会理事。「精神医療」編集委員。自閉症スペクトラムの臨床研究のほか、不登校・ひきこもりの臨床社会的研究、少年事件の精神鑑定を多く手がけている。主な著書に『「絶歌」論』『やさしい発達障害論』『続・やさしい発達障害論』『精神現象を読み解くための10章』（批評社）、『少年事件 心は裁判でどう扱われるのか』『精神鑑定とは何か』（明石書店）、『不登校・ひきこもりを生きる』（青灯社）がある。

◇寺出壽美子（ソーシャルワーカー）

慶應義塾大学文学部卒業。教員、子どもの本屋店長、学習塾代表、児童養護施設施設長などを経て、現在、NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会理事長。前東邦大学薬学部非常勤講師。虐待、いじめ、不登校・ひきこもり、家庭内暴力、少年事件など、多岐にわたる分野で、子どもと親への面接相談や支援に従事している。共著に『家庭訪問型子育て支援』『養育事典』（明石書店）、『ひきこもりという希望』、調査研究報告書に「東京・神奈川・埼玉のひとり親家庭ホームヘルプサービス事業に関する支援状況」「世田谷区における養育困難家庭の実態調査報告書」がある。

【日本子どもソーシャルワーク協会の活動】

子どもや若者に寄り添い、子どもや若者が地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指して、活動しています。

- ・面接相談（子ども・若者・家族等）
- ・養育支援訪問「ケアワーカー派遣」……………世田谷区・目黒区からの委託事業
- ・非行少年等立ち直り支援「ぴあすぼ」……………東京都からの委託事業
- ・不登校ひきこもり訪問支援「ユースワーカー派遣」…東京都 登録団体
- ・不登校ひきこもりの親の会「しいの実」
- ・子どもの居場所「Whole まるごと」
- ・講座・シンポジウム、講演、出版

日本子どもソーシャルワーク協会の活動は、個人・団体・企業様からのご寄付や会員の皆様からの会費・ボランティアなどによって支えられています。皆様のあたたかいご支援を心よりお願いいたします。

郵便振込先 口座名称：日本子どもソーシャルワーク協会 口座番号：00190-3-659676